

## 1. 事業の目的

平成24年度の検討結果に基づき、稼働率の向上を図りながら拠点施設をシニア世代と子ども世代の交流、滞留の場として有効活用し、世代間交流の担い手の育成とともに、地区内のコミュニティ再生、賑わいづくりの実現と定着を図るため、社会実験的事業として『遊びの広場』事業に取り組んでいる。

## 2. 事業の概要

- ・月2回（土曜日）、地区の拠点施設として商店街振興組合が整備した「まちの駅七福」を活動場所として、「昔遊び」をテーマにした「遊びの広場」を開催する。開催期間は、9月～11月の3ヶ月間。
- ・主として小学生を対象に、シニア世代が昔ながらの遊び等を、一緒に遊びながら伝えていく。具体的には、青森県将棋連盟の講師が将棋を基礎から教える「将棋教室」、コマ回しやお手玉などの昔ながらの遊びを体験できる「昔遊ぶ」ができる環境を整える。
- ・シニア世代は専門家ではなく、こうした遊びをしたことのある地区住民であり、一緒に遊ぶことで交流を深め、高齢者と子ども、子ども同士が面倒を見合うようなコミュニティの再生を図る。
- ・合わせて、人の出入りを多くし、拠点施設のPR、稼働率向上を図る。
- ・参加者には、子ども用と保護者用の簡単なアンケートを用意し、毎回終了後に記入をしてもらっている。また、開催期間終了後、詳細なアンケートを行い、ニーズ等の把握をする予定である。

## 3. 事業体制

○用具：

「教える」 → 将棋盤・駒は、青森県将棋連盟からレンタル。

「遊ぶ」 → パッチ、けん玉、コマ、ヨーヨー、お手玉（レクリエーション協会からレンタル。）

ボードゲーム2種（おもちゃ図書館からレンタル。）

あやとり、紙鉄砲、ブンブンごま（分科会メンバーが準備。）

「事務」 → 子ども、スタッフが付ける名札。30～40名分。

○スタッフ： 分科会メンバー、ボランティア、市職員

○告知方法： チラシを作成し、各小学校へ配布。市広報への折込。

## 将棋教室



## 昔遊び



#### 4. 途中経過

##### ○開催日時、参加人数

テスト開催：	3月30日	昔遊び（子6、親3）、将棋教室（子13、親1）
	5月18日	昔遊び（子12、親3）
本開催：	9月14日	昔遊び（子5、親2）
	9月24日	昔遊び（子0）、将棋教室（子8）
	10月12日	昔遊び（子7、親2名）
	10月19日	昔遊び（子2、親1）、将棋教室（子7、親4）
	11月9日	昔遊び、将棋教室
	11月23日	昔遊び

参加人数 66名（リピーター含む76名）

内訳 子46名、親18名

一田小14名、二田小28名、大平小1名、苫生小1名、幼稚園2名

##### ○アンケート（途中経過）

- ・将棋教室：子ども達は「楽しかった」との意見が多く、好評である。  
基礎・基本を勉強したい、大会に出たいとの意見が多い。  
今後習ってみたいものとしては、囲碁や実験、スポーツが挙げられている。  
保護者の回答では、開催頻度、場所、料金について、不満は無く、定期開催を望む声もある。
- ・昔遊び： 子ども達は「楽しかった」との意見が多く、好評である。  
どの遊びも好評で、輪投げやカルタのほか、スポーツや竹馬など、外遊びを望む声も有った。  
保護者の回答では、開催頻度、場所、料金について、不満は無く、定期開催を望む声もある。

#### 5. 今後の活動

11月中に2回の開催を残しており、開催後、アンケートの集計等をした上で、分科会において、田名部まちなかにおける交流の場づくりについて、ニーズや有効性、実施にあたっての必要な体制などについて、再度検討を行う。